

## 2 列王記

1:13 王はまた、第三の五十人隊の長と、その部下五十人を遣わした。この三人目の五十人隊の長は上って行き、エリヤの前に<sup>ひざまずき</sup>、懇願して言った。「神の人よ、どうか私のいのちと、このあなたのしもべ五十人のいのちをお助けください。

ひざまずき=カラ◀ 3766.( y r j ) kara 36 回▶ ひざまづく (現へ) ひざまづく

(NAS) bowed down on his knees (KJV) fell on his knee (INT) bowed down on his knees (改 4)ひざまずき

1 : 1 7 ヨラム (イスラエル 9)

2:1 【主】がエリヤを竜巻に乗せて天に上げようとされたときのこと、エリヤはエリシャを連れて<sup>ギルガル</sup>から出て行った。

ギルガル= (転がすの意味)

1、割礼をした (ヨシュア 5 : 9)

2、マナがやんだ (ヨシュア 5 :

1 2)

2:2 エリヤはエリシャに「ここにとどまっていなさい。【主】が私をベテルに遣わされたから」と言った。しかしエリシャは言った。「【主】は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らは<sup>ベテル</sup>に下って行った。

ベテル== 神と逢う場所、静まって個人的に語られる (創 2 8 : 1 8) (創 3 5 : 1)

創世記 28:18 翌朝早く、ヤコブは自分が枕にした石を取り、それを立てて石の柱とし、柱の頭に油を注いだ。

創世記 35:1 神はヤコブに仰せられた。「立って、ベテルに上り、そこに住みなさい。そしてそこに、あなたが兄エサウから逃れたとき、あなたに現れた神のために祭壇を築きなさい。」

2:3 すると、ベテルの預言者の仲間たちがエリシャのところに出て来て、彼に言った。「今日、【主】があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。」エリシャは、「私も知っていますが、黙っていてください」と答えた。

@預言は的確だが、ただ聞いたことを伝えただけで、どこにも向かっていない。

しかしエリシャは油注ぎに飢え乾いていた。

2:4 エリヤは彼に「エリシャ、ここにとどまっていなさい。【主】が私をエリコに遣わされたから」と言った。しかし彼は言った。「【主】は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らはエリコにやって来た。

エリコ = 勝利は主のもの

2 : 6 ヨルダン」 = 死の場所

死を経験してエリシャはしもべから預言者になった

それらの解釈（説教者別）

ギルガル = 従順の場（JJ）

ベテル=神との交わり (JJ)、格闘 (ベニーヒン)

エリコ=勝利は主 (JJ)

ヨルダン=死 (JJ)、ビジョン (ベニーヒン)、*vida alta de spiritu* (エリオス)

2:9 渡り終わると、エリヤはエリシャに言った。「あなたのために何をしようか。私があなたのところから取り去られる前に求めなさい。」するとエリシャは、「では、あなたの霊のうちから、二倍の分を私のものにしてください」と言った。

エリヤはエリシャに言った・・・エリヤ=キリスト、エリシャ=教会  
二倍の分= 長子ゆえ当然の権利 長子の教会 (ヘブ 12 : 23)

二倍

のわけまえ (申 21 : 17)

2:10 エリヤは言った。「あなたは難しい注文をする。しかし、私があなたのところから取り去られるとき、あなたが私を見ることができれば、そのことはあなたにかなえられるだろう。できないなら、そうはならない。」

見ることができれば=霊の目が無ければ油注ぎも生かせないので

2:11 こうして、彼らがなお進みながら話していると、なんと、火の戦車と火の馬が現れ、この二人の間を分け隔て、エリヤは竜巻に乗って天へ上って行った。

こうして=ずっとつきまとっていた

2:12 エリシャはこれを見て、「わが父、わが父、イスラエルの戦車と騎兵たち」と叫び続けたが、エリヤはもう見えなかった。彼は自分の衣をつかみ、それを二つに引き裂いた。

二つに引き裂いた＝油注ぎは古い自分を捨てて新しいものとなる（エペ4：22）

2:15 エリコの預言者の仲間たちは、遠くから彼を見て、「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている」と言って、彼を迎えに行き、地にひれ伏して礼をした。

遠くから＝◀ 5048. neged ▶ Definition: in front of, in sight of, opposite to  
訳出：「ふさわしい」（Ge2:18）、「前で」（Ge 47:15）目の前でのニュアンス

遠くから彼を見て＝（共）目の前で彼を見て

油注ぎを即座に理解した

礼をした＝シャハー◀ 7812. shachah (שָׁחָה) (172回) ▶ ひざまづく、礼拝する、礼をする

(NAS) (KJV) (INT) \*bow (改4)礼をした

2:16 彼らはエリシャに言った。「しもべたちのところに五十人の力ある者がいます。どうか彼らにあなたのご主人を捜しに行かせてください。【主】の霊がエリヤを運んで、どこかの山か谷に投げたかもしれません。」するとエリシャは、「行かせてはいけません」と言った。

預言者のともがらは、竜巻に上げられるエリヤを見たが火の戦車は見ていなかった。

それゆえ的を得ていないことを言った。

2:19 さて、この町の人々はエリシャに言った。「あなた様もご覧のとおり、この町は住むのには良いのですが、水が悪く、この土地は流産を引き起こします。」

2:20 するとエリシャは言った。「新しい皿に塩を盛って、私のところに持って来なさい。」人々は彼のところにそれを持って来た。

2:21 エリシャは水の源のところに行って、塩をそこに投げ込んで言った。「【主】はこう言われる。『わたしはこの水を癒やした。ここからは、もう、死も流産も起こらない。』」

2:22 こうして水は良くなり、今日に至っている。エリシャが言ったことばのとおりである。

2:23 エリシャはそこからベテルへ上って行った。彼が道を上って行くと、その町から小さい子どもたちが出て来て彼をからかい、「上って来い、はげ頭。上って来い、はげ頭」と言ったので、

@上って来い = ◀ 5927. alah 888 回 ▶ to go up, ascend, climb

(?) 2 : 2 3 —「上って来い、はげ頭」—この言葉は単なる罵りではなく、  
「エリヤのように昇ってみよ！」という意味

————— エリヤの昇天はキリストの復活（携挙）の雛形ゆえに、復活、携挙をからかっている。—

————— 不敬虔者への裁き（黙示 1 1 : 2）（黙示 1 3 : 5）—

2 : 2 4            4 2 人の子供」、4 2 ヶ月（黙示 1 1 : 2）

2:24 彼は向き直って彼らをにらみつけ、【主】の名によって彼らをのろった。すると、森の中から二頭の雌熊が出て来て、子どもたちのうち四十二人をか

き裂いた。

黙示録 11:2 神殿の外の庭はそのままにしておきなさい。それを測ってはいけない。それは異邦人に与えられているからだ。彼らは聖なる都を四十二か月の間、踏みにじることになる。

11:3 わたしがそれを許すので、わたしの二人の証人は、粗布をまとして千二百六十日間、預言する。」

11:4 彼らは、地を治める主の御前に立っている二本のオリーブの木、また二つの燭台である。

11:5 もしだれかが彼らに害を加えようとするなら、彼らの口から火が出て、敵を焼き尽くす。もしだれかが彼らに害を加えようとするなら、必ずこのように殺される。

11:6 この二人は、預言をしている期間、雨が降らないように天を閉じる権威を持っている。また、水を血に変える権威、さらに、思うままに何度でも、あらゆる災害で地を打つ権威を持っている。

3 : 9 「エドム」 = 死海の南

3 : 10 「モアブ」 = 死海の東

3:13 エリシャはイスラエルの王に言った。「私とあなたの間に関わりがあるでしょうか。あなたの父の預言者たちや、母の預言者たちのところに行かれたらよいでしょう。」すると、イスラエルの王は彼に言った。「いや、モアブの手に渡すために、この三人の王を呼び集めたのは、【主】だ。」

。

3:14 エリシャは言った。「私が仕えている万軍の【主】は生きておられます。もし私がユダの王ヨシャファテの顔を立てるのでなければ、私は決してあなたに目も留めず、あなたに会うこともしなかったでしょう。」

生きておられます = ◀ 2416. chay (ハイ)(חַי)503 回 ▶ (A)(N) いのち、生きている

ヨシャファテの顔を立てるのでなければ＝ 主の恵はわれわれの義のゆえではない

3:15 しかし今、豎琴を弾く者をここに連れて来てください。」豎琴を弾く者が豎琴を弾き鳴らすと、【主】の手がエリシャの上に下り、

エリシャほどの人でも、預言の前に賛美により、臨在を求めた  
賛美は預言的な賜物をもたらす（1歴25：1）

エリシャは怒っていたので預言する気にならなかったが、賛美が聖霊を呼び覚まし、預言できた

詩 49:4 私はたとえ話に耳を傾け豎琴に合わせて謎を解き明かそう。

3:17 **【主】**がこう言われるからです。『風を見ず、大雨を見なくても、この涸れた谷には水があふれる。あなたがたも、あなたがたの家畜も、動物もこれを飲む。』

大雨を見なくても ＝ 信仰によって掘る

4:1 預言者の仲間の妻の一人がエリシャに叫んで言った。「あなたのしもべである私の夫が死にました。ご存じのように、あなたのしもべは**【主】**を恐れていました。ところが、債権者が来て、私の二人の子どもを自分の奴隷にしようとしています。」

@神の人が尊ばれていない暗黒の時代

4:2 エリシャは彼女に言った。「何をしてあげようか。私に話さない。あなたには、家の中に何かあるのか。」彼女は答えた。「はしためには、家の中に何もありません。ただ、油の壺一つしかありません。」

@とにかく回復へのきっかけをさぐる。

@＝自分の現状を（透明に）ありのままを主に伝える。

多くの人は見栄を張って祝福を逃している。

4:3 すると、彼は言った。「外に行って、近所の皆から、器を借りて来なさい。空の器を。それも、一つや二つではいけません。

4:4 家に入ったら、あなたと子どもたちの背後の戸を閉めなさい。そしてすべての器に油を注ぎ入れなさい。いっぱいになったものは、わきに置きなさい。」

戸を閉めなさい＝聖別

4:5 そこで、彼女は彼のもとから去って行き、彼女と子どもたちが入った背後の戸を閉めた。そして、子どもたちが次々と自分のところに持って来る器に油を注ぎ入れた。

4:6 器がどれもいっぱいになったので、彼女は子どもの一人に言った。「もっと器を持って来なさい。」その子どもが彼女に、「もう器はありません」と言うと、油は止まった。

4:7 彼女が神の人に知らせに行くと、彼は言った。「行ってその油を売り、あなたの負債を払いなさい。その残りで、あなたと子どもたちは暮らしていけます。」

あなたの負債を払いなさい＝借金があったらすぐに払うべき、(箴言 6 : 3)  
対処

4:8 ある日、エリシャがシュネムを通りかかると、そこに一人の裕福な女がいて、彼を食事に引き止めた。それ以来、エリシャはそこを通りかかるたびに、



そこに寄って食事をするようになった。

シュネム＝◀ 7766. Shunem (שׁוֹנֵם) 3 回▶地名。(BLB)二重休憩所"double resting place"

@裕福な女… (エリシャが) 貧しい人を助けたら (4 : 1) 金持ちがわれわれを助けるようになる

4 : 8 預言を受けるための型]、 エリシャ]＝御霊、裕福な女＝われわれ、子供＝預言

死＝成就しなかった預言、蘇り  
＝成就

4:9 女は夫に言った。「いつも私たちのところに立ち寄って行かれるあの方は、きっと神の聖なる方に違いありません。」

@何度か食事を提供しているのに彼のことをよく知らなかった。

- 1、引き止めた (4 : 8)                    せがむ、
- 2、改築 (リニューアルする) (4 : 10)      部屋を作り
- 3、投資する (4 : 10)                    小さな部屋を作り
- 4、余地をもうける (4 : 10)              小さな部屋を作り
- 5、御霊に安息していただく (4 : 10) 寝台
- 6、交わり、(4 : 10)                    机
- 7、1つの王座 (4 : 10)                  椅子
- 8、道を照らすみ言葉 (4 : 10) 燭台

4:13 エリシャはゲハジに言った。「彼女にこう伝えなさい。『本当に、あなた

はこのように、私たちのことで一生懸命骨折ってくれたが、あなたのために何をしたらよいか。王か軍の長に、何か話してほしいことでもあるか』と。」彼女はそれにこう答えた。「私は私の民の間で、幸せに暮らしております。」

子供（実）がないのにその重要性に気がついていない。

4:23 すると彼は、「どうして、今日あの人のところに行くのか。新月祭でもなく、安息日でもないのに」と言ったが、彼女は「かまいません」と答えた。

新月祭でもなく、安息日でもないのに＝宗教的、日曜日でもないのにどうして教会に行くのか？

4:27 それから彼女は山の上にいる神の人のところに来て、彼の足にすがりついた。ゲハジが彼女を追い払おうと近寄ると、神の人は言った。「そのままにしておきなさい。彼女の心に悩みがあるのだから。【主】はそれを私に隠し、まだ私に知らせておられないのだ。」

追い払おうと = 憐れみが無い、高慢

。

II 列王 4:29 そこでエリシャはゲハジに言った。「腰に帯を締め、手に私の杖を持って行きなさい。たとえだれかに会っても、あいさつしてはならない。たとえだれかがあいさつしても、答えてはならない。そして、私の杖をあの子の頭の上に置きなさい。」

あいさつする＝バラク・1288. (גַּבַּר)barak 330 回▶ 祝福する 316 回(英)の内 74 回ほめる(改 4)。

(NAS)(KJV)(INT): salute (改)あいさつ

腰に帯を締め、手に私の杖を持って行きなさい＝ゲハジのレッスンの為に先に行かせた

2 列王記 4:33 エリシャは中に入り、戸を閉めて、二人だけになって【主】に祈った。

◀ 6419. palal (פָּלַל) 84 回 ▶ (V) 干渉する、とりなしする、祈る

@ 戸を閉めて、二人だけに＝疑い深い者（妨げ、ゲハジ）をしめだす

第 2 列王 4:34 それから、寝台の上に上がり、その子の上に身<sup>を伏せ</sup>、自分の口をその子の口の上に、自分の目をその子の目の上に、自分の両手をその子の両手の上に重ねて、その子の上に身をかがめた。すると、その子のからだ<sup>が</sup>温かくなってきた。

第 2 列王 4:35 それからエリシャは降りて、部屋の中をあちらこちらと歩き回り、また寝台の上に上がり、子どもの上に身<sup>をかがめる</sup>と、子どもは七回くしゃみをして目を開けた。

ひざまずいて＝◀ 1457. Gahar (גָּהַר) 3 回 ▶ ひざまづく(第 1 列王 18:42)、身をかがめる(第 2 列王 4:35)、身を伏せる(第 2 列王 4:34)

第 1 列王 18:42 そこで、アハブは食べたり飲んだりするために上って行った。エリヤはカルメル山の頂上に登り、地に<sup>ひざまずいて</sup>自分の顔を膝の間<sup>に</sup>うずめた。

4:35 それからエリシャは降りて、部屋の中をあちらこちらと歩き回り、また寝台の上に上がり、子どもの上に身をかがめると、子どもは七回くしゃみをして目を開けた。

@ 旧約の中での蘇りの奇跡の多くは神に仕えた人のために起こった  
(へブ 11 : 35)

4:37 彼女は入って来て彼の足もとにひれ伏し、地にひれ伏した。そして、子どもを抱き上げて出て行った。

(足もとに)ひれ伏し= ◀ 5307. naphal ▶

(地に)ひれ伏した=シャハー◀ 7812. shachah (נשח) (172回) ▶ ひざまづく、礼拝する、礼をする

5:2 アラムはかつて略奪に出たとき、イスラエルの地から一人の若い娘を捕らえて来ていた。彼女はナアマンの妻に仕えていた。

5:3 彼女は女主人に言った。「もし、ご主人様がサマリアにいる預言者のところに行かれたら、きっと、その方がご主人様のツアラアトを治してくださるでしょう。」

言った= 口を開いて神の言葉を語らねば何事も始まらない

5:7 イスラエルの王はこの手紙を読むと、自分の衣を引き裂いて言った。「私は殺したり、生かしたりすることのできる神であろうか。この人はこの男を送って、ツアラアトを治せと言う。しかし、考えてみよ。彼は私に言いがかりをつけようとしているのだ。」

@信仰が無かったのでチャンス逃した

5:10 エリシャは、彼に使者を遣わして言った。「ヨルダン川へ行って七回あなたの身を洗いなさい。そうすれば、あなたのからだは元どおりになって、きよくなります。」

使者を遣わして

5:13 そのとき、彼のしもべたちが近づいて彼に言った。「わが父よ。難しいことを、あの預言者があなたに命じたのでしたら、あなたはきっとそれをなされたのではありませんか。あの人は『身を洗ってきよくなりなさい』と言っただけではありませんか。」

@「難しいことを、あの預言者があなたに命じたのでしたら」＝救われる為に  
ひとつような事は複雑なことではない

言っただけではありませんか。＝ ただ意思を用いて下さい。

5:14 そこで、ナアマンは下って行き、神の人が言ったとおりに、ヨルダン川に七回身を浸した。すると彼のからだは元どおりになって、幼子のからだのようになり、きよくなった。

@六回目までは馬鹿みたいだったと思う

5:18 どうか、【主】が次のことについてしもべをお赦しくくださいますように。私の主君がリンモンの神殿に入って、そこでひれ伏すために私の手を頼みにします。それで私もリンモンの神殿でひれ伏します。私がリンモンの神殿でひれ伏すとき、どうか、【主】がこのことについてしもべをお赦しくくださいますように。」

@偶像礼拝の補助の許可

@すべてシャカー

拝む／かがめます／かがめる＝シャハー◀ 7812. shachah (שחח) (172 回) ▶ ひざまづく、礼拝する、礼をする

(NAS) (KJV) (INT)\* worship (改 4) 拝む／かがめます／かがめる

(改 2)

5:18 主が次のことをしもべにお許しくくださいますように。私の主君がリモンの神殿にはいって、そこで<sup>①</sup>拝む場合、私の腕に寄りかかります。それで私もリモンの神殿で身を<sup>②</sup>かがめます。私がリモンの神殿で身を<sup>③</sup>かがめるとき、どうか、主がこのことをしもべにお許しくくださいますように。」

5:19 エリシャは彼に言った。「安心して行きなさい。」そこでナアマンは彼から離れ、かなりの道のりを進んで行った。

5:20 そのとき、神の人エリシャに仕える若者ゲハジはこう考えた。「何としたことか。私の主人は、あのアラム人ナアマンが持って来た物を受け取ろうとはしなかった。**【主】**は生きておられる。私は彼の後を追いかけて、絶対に何かをもらって来よう。」

生きておられる = ◀ 2416. Chay(חַי) 503 回 ▶ (A)(N) 生きている

**【主】**は生きておられる = (חַי)(יְהוָה)(יְהוָה) hay Yahwah ki =for Yahwah live

@ 「主は生きておられる」 = 主の名を乱用

(1サム23:7) サウルは、「神は彼を私の手に渡された、..」と言った。

(創16:5)。「私に対するこの横柄さは、あなたのせいです、..」

@ 「もらってこよう」 = 油注ぎはもらうものではなく与えられるもの

エリシャが受け取らなかった2つの理由

- 1、未信者 (ナアマン) への証
- 2、ゲハジの心を暴く為

5:25 彼が家に入って主人の前に立つと、エリシャは彼に言った。「ゲハジ。おまえはどこへ行って来たのか。」彼は答えた。「しもべはどこへも行っていません。」

5:26 エリシャは彼に言った。「あの人がおまえを迎えに戦車から降りたとき、私の心はおまえと一緒に歩んでいたではないか。今は金を受け、衣服を受け、オリーブ油やぶどう畑、羊や牛、男女の奴隷を受ける時だろうか。」

@悔い改めるチャンスはいつも与えられていた

アダム（創3：9）

カイン（創4：9）

ユダ（マタ26：25）

アナニアとサッピラ（使徒5：8）

5:26 エリシャは彼に言った。「あの人がおまえを迎えに戦車から降りたとき、私の心はおまえと一緒に歩んでいたではないか。今は金を受け、衣服を受け、オリーブ油やぶどう畑、羊や牛、男女の奴隷を受ける時だろうか。」

私の心はおまえと一緒に歩んでいたではないか = 霊においてともにいる

（1コリ5：4）

（コロ2：5）

ゲハジが油注ぎを失った5つの理由

1、求めている

2、憐れみが無い（4：22）

3、あやまった動機（天にあるものを求めている）（5：20，2

1）（コロ3：2）

4、霊的な目を持っていない

5、悔いあらためが無い（5：25）

6、信仰が無かった（4：31）

5:27 ナアマンのツアラアトは、いつまでもおまえとおまえの子孫にまといつく。」ゲハジはツアラアトに冒され、雪のようになって、エリシャの前から去って行った。

。

@「らい病」=隠れたところで罪を犯したが人々の前にさらけ出された  
(マタ10：26)

@自分が追いかけたものが与えられた

エリシャは	エリアを追いかけて	油注ぎを受け
-------	-----------	--------

ゲハジは	ナアマンを追いかけて	ライ病を受け
------	------------	--------

6:2 ヨルダン川に行きましょう。そこから各自一本ずつ梁にする木を切り出して、そこに私たちの住む場所を作りましょう」と言うと、エリシャは「行きなさい」と言った。

6:5 一人が梁にする木を切り倒しているとき、斧の頭が水の中に落ちてしまった。彼は叫んだ。「ああ、主よ、あれは借り物です。」

@斧の頭が水の中に落ちてしまった=御霊の力を失った

@あれは借り物です =油注ぎは主からの借り物

6:6 神の人は言った。「どこに落ちたのか。」彼がその場所を示すと、エリシャは一本の枝を切ってそこに投げ込み、斧の頭を浮かばせた。

@一本の枝を切って=十字架を表す



6:15 神の人の召使いが、朝早く起きて外に出ると、なんと、馬と戦車の軍隊がその町を包囲していた。若者がエリシャに、「ああ、ご主人様。どうしたらよいのでしょうか」と言った。

6:16 すると彼は、「恐れるな。私たちとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いのだから」と言った。

2歴代 32:7 「強くあれ。雄々しくあれ。アッシリアの王や、彼とともにいるすべての大軍を恐れてはならない。おののいてはならない。彼とともにいる者よりも大いなる方が、私たちとともにいてくださるからである。

1ヨハネ 4:4 子どもたち。あなたがたは神から出た者であり、彼らに勝ちました。あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。

6:17 そして、エリシャは祈って【主】に願った。「どうか、彼の目を開いて、見えるようにしてください。」【主】がその若者の目を開かれたので、彼が見ると、なんと、火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちていた。

祈って= ◀ 6419. palal (פָּלַל) 84 回 ▶ (V)干渉する、とりなしする、祈る

山に満ちていた=

(詩 34:7 【主】の使いは主を恐れる者の周りに陣を張り彼らを助け出される。

(詩 68:17 神の戦車は幾千万と数知れず。主はその中におられる。シナイの神は聖所の中に。

6:18 アラム人がエリシャに向かって下って来たとき、彼は【主】に祈って言った。「どうか、この民を打って目をくらませてください。」そこで主はエリシ

ヤのことばのとおり、彼らを打って **目をくらまされた**。

祈って = ◀ 6419. palal (לָלַץ) 84 回 ▶ (V) 干渉する、とりなしする、祈る

6:24 この後、アラムの王ベン・ハダドは全軍を召集し、サマリアに上って来て、これを **包囲した**。

6:25 サマリアには大飢饉が起こっていて、また彼らが包囲していたので、ろばの頭一つが銀八十シェケルで売られ、鳩の糞一カブの四分の一が銀五シェケルで売られるようになった。

@ 乏しい食物に甘んじるようになった

6:32 エリシャは自分の家に座っていて、長老たちも彼と一緒に座っていた。王は一人の者を自分のもとから遣わした。しかし、その使者がエリシャのところに着く前に、エリシャは長老たちに言った。「**あの人殺し**が、私の首をはねに人を遣わしたのを知っていますか。気をつけなさい。使者が来たら戸を閉め、戸を押しても入れないようにしなさい。そのうしろに、彼の主君の足音がするではありませんか。」

あの人殺し = 北イスラエルの王

6:33 彼がまだ彼らと話しているうちに、使者が彼のところに下って来て言った。「見よ、これは【主】からのわざわいだ。これ以上、私は何を【主】に期待しなければならぬのか。」

これ以上、私は何を【主】に期待しなければならぬのか = 主を責めている

7:2 しかし、侍従で、王が頼みにしていた者が、神の人に答えて言った。「た

とえ【主】が天に窓を作られたとしても、そんなことがあるだろうか。」そこで、エリシャは言った。「確かに、あなたは自分の目でそれを見るが、それを食べることはできない。」

窓 = ◀ 699. arubbah (אַרְבָּח)(アル・バア) 9回 ▶ 窓(2王7:2) 水門(Ge7:11) 巢(イザヤ60:8)

頼みにしていた者 = (改2)腕に抛りかかっていた人、= 信頼している人  
@側近が疑いに満ちていた

7:3 さて、ツアラアトに冒された四人の人が、町の門の入り口にいた。彼らは互いに言った。「われわれはどうして死ぬまでここに座っていなければならないのか。」

@ (1) 決心。(2) 行動

7:6 これは、主がアラムの陣営に、戦車の響き、馬のいななき、大軍勢の騒ぎを聞かせたので、彼らが口々に「見よ。イスラエルの王が、ヒッタイト人の王たち、エジプトの王たちを雇って、われわれを襲って来る」と言い、

7:3 さて、ツアラアトに冒された四人の人が、町の門の入り口にいた。彼らは互いに言った。「われわれはどうして死ぬまでここに座っていなければならないのか。」

7:4 たとえ町に入ろうと言ったところで、町は食糧難だから、われわれはそこで死ななければならない。ここに座っていても死ぬだけだ。さあ今、アラムの陣営に入り込もう。もし彼らがわれわれを生かしておいてくれるなら、われわれは生き延びられる。もし殺すなら、そのときは死ぬまでのことだ。」

7:5 こうして、彼らはアラムの陣営に行こうと、夕暮れになって立ち上がり、アラムの陣営の端まで来た。すると、なんと、そこにはだれもいなかった。

7:6 これは、主がアラムの陣営に、戦車の響き、馬のいななき、大軍勢の騒ぎ

を聞かせたので、彼らが口々に「見よ。イスラエルの王が、ヒッタイト人の王たち、エジプトの王たちを雇って、われわれを襲って来る」と言い、

7:7 夕暮れに立って逃げ、自分たちの天幕や馬やろば、陣営をそのまま置き去りにして、いのちからがら逃げ去ったからであった。

7:8 ツアラアトに冒されたこの人たちは、陣営の端に来て、一つの天幕に入って食べたり飲んだりし、そこから銀や金や衣服を持ち出して隠した。また戻って来てはほかの天幕に入り、そこからも持ち出して隠した。

7:9 彼らは互いに言った。「われわれのしていることは正しくない。今日は良い知らせの日なのに、われわれはためらっている。もし明け方まで待っていたら、罰を受けるだろう。さあ、行こう。行って王の家に知らせよう。」

@罰を受けるだろう = ◀ 5771. avon ▶ 罰、咎、罪悪感

@さあ = ◀ 6258. attah ▶ (A) (名詞としての使用) 今

@疑いは踏みつけられる

7:17 王は例の侍従、頼みにしていた侍従を門の管理に当たさせたが、民が門で彼を踏みつけたので、彼は死んだ。王が神の人のところに下って行ったときに、神の人が告げたことばのとおりであった。

8:6 王が彼女に尋ねると、彼女は王にそのことを話した。すると王は彼女のために、一人の宦官に「彼女のすべての物と、彼女がこの地を離れた日から今日までの畑の収穫のすべてを、返してやりなさい」と命じたのであった。

@ 畑の収穫もみな返してあげなさい、主に仕えた人への報い

宦官 = ◀ 5631. saris (סַרִּיס) (サリース) 42 回 ▶ 頻度 42 回、その内宦官は 15 回

(2 列王 22:9) に解説あり

(KJV) では officer と訳されているこの単語は新改訳で「廷臣」と訳されるであろう。

この単語を宦官と訳するかどうかは疑問である。

新改訳では第1列王記 22章9節以前には「宦官」はないが、これ以後、すべての Saris は宦官(37回)と訳される。

(NAS)では旧約聖書全体を見ても 42回中 16回、エステル記を除けば4回のみ

(KJV)はエステル記では chamberlains という単語を当てている。

KJV は預言書で多用しているので(NAS)より多いが、それでも歴史書の中で宦官と訳されたのは(2王 9:32)(2王 20:18)の2か所だけ。

(NAS)(INT)では歴史書の中では皆無

2列王 9:32 彼は窓を見上げて、「だれか私にくみする者はいないか。だれかいないか」と言った。二、三人の宦官が彼を見下ろしていたので、  
2列王 20:18 また、あなたが生む、あなた自身の息子たちの中には、捕らえられてバビロンの王の宮殿で宦官となる者がいる。」

預言書では「宦官」が出てくる。KJV では頻発だが(NAS)(INT)ではむしろ少数派。

8 : 1 6 ヨラム (ユダ5)

8:18 彼はアハブの家の者がしたように、イスラエルの王たちの道に歩んだ。アハブの娘が彼の妻だったからである。彼は【主】の目に悪であることを行った。

@ 和解の為のアハブの娘が問題の種となった。

。

8 : 2 4 アハズヤ (ユダ 6)

9 : 6 エフー (イスラエル 10)

9:24 エフーは力いっぱい弓を引き絞り、ヨラムの胸を射た。矢は彼の心臓を射抜いたので、彼は戦車の中に**崩れ落ちた**。

くずおれた=カラ◀ 3766.( ירד ) kara 36 回▶ ひざまづく (現へ) ひざまづく

(NAS)(KJV)(INT)\* sank (改 4)くずおれた

9:37 イゼベルの死体は、イズレエルの地所で畑の上にまかれた肥やしのようになり、だれもこれがイゼベルだと言えなくなる。』

10:13 エフーはユダの王アハズヤの身内の者たちに出会った。彼が「おまえたちはだれか」と聞くと、彼らは、「私たちはアハズヤの身内の者です。王の子どもたちと、**王母**の子どもたちの安否を尋ねに下って来ました」と答えた。

王母=◀ 1377. gebirah 6 回▶ lady, queen 翻訳は (改 2)王母、(KJV) ほどの箇所も常に queen

通常王妃及び女王は◀ 4436. malkah ▶

10:15 彼がそこを去って行くと、彼を迎えに来たレカブの子ヨナダブに出会った。エフーは彼に**あいさつして**言った。「あなたの心は、私の心があなたの心に対してそうであるように、真っ直ぐですか。」ヨナダブは、「そうです」と答えた。「そうなら、こちらに手を伸ばしなさい。」ヨナダブが手を差し出すと、エフーは彼を戦車の上に引き上げて、

あいさつする=バラク◀ 1288. (ברך)barak 330 回▶ 祝福する 316 回(英)の内 74 回ほめる(改 4)。

(NAS) greeted (KJV) saluted (INT) greeted

10 : 18 - 20

10:18 エフーはすべての民を集めて、彼らに言った。「アハブは少ししかバアルに仕えなかったが、エフーは大いに仕えるつもりだ。

10:27 バアルの石の柱を打ち壊し、バアルの神殿も打ち壊し、これを便所とした。それは今日まで残っている。

便所 = ◀ 4163. Motsaah (מִצְאָה) 02 回 ▶ (N) 出ていくこと、出現、排出(トイレ、下水)

ミカ 5:2 「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」

10:29 ただしエフーは、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪、すなわち、ベテルとダンにあった金の子牛に仕えることから離れようとはしなかった。

10:30 【主】はエフーに言われた。「あなたはわたしの目にかなったことをよくやり遂げ、アハブの家に対して、わたしが心に定めたことをことごとく行つたので、あなたの子孫は四代目まで、イスラエルの王座に就く。」

10:31 しかしエフーは、心を尽くしてイスラエルの神、【主】の律法に歩もうと心がけることをせず、イスラエルに罪を犯させたヤロブアムの罪から離れなかった。

11 : 1           アタルヤ (ユダ7)

11 : 2           ヨアシュを、隠した」、キリストの先祖、血統を守る為に

主の計らい

12 : 1 ヨアシュ (ユダ8)

12:2 ヨアシュは、祭司エホヤダが彼を教えた間、いつも【主】の目にかなうことを行った。

12:15 また、工事する者に支払うように金を渡した人々が精算を求められることはなかった。彼らが忠実に働いていたからである。

精算=(協共)監査

。

13 : 1 エホアハズ (イスラエル11)

13 : 10 ヨアシュ (イスラエル12)

13:19 神の人は彼に激怒して言った。「あなたは五回も六回も打つべきだった。そうすれば、あなたはアラムを討って、絶ち滅ぼすことになっただろう。しかし、今は三回だけアラムを討つことになる。」

13:21 人々が、一人の人を葬ろうとしていたちょうどそのとき、略奪隊を見たので、その人をエリシャの墓に投げ入れて去って行った。その人がエリシャの骨に触れるやいなや、その人は生き返り、自分の足で立ち上がった。

@油注ぎが骨にまでしみこんでいた

(詩109 : 17, 18) 彼はまたのろうことを愛したので、それが自分に返って

来ました。祝福することを喜ばなかったなので、それは彼から遠く離れました。

彼はおのれの衣のようにのろいを身にまといました。それは水のように彼の



内臓へ、油のように、その骨々にしみ込みました。

m

14 : 1           アマツヤ (ユダ9)  
14 : 16          ヤロブアム (イスラエル13)

14:25 彼は、レボ・ハマテからアラバの海までイスラエルの領土を回復した。  
それは、イスラエルの神、【主】が、そのしもべ、ガテ・ヘフェル出身の預言者、アミタイの子ヨナを通して語られたことばのとおりであった。

。

@ガテ・ヘフェル」は西ガリラヤ=ナザレの北2, 3 km の位置  
(BLB)では「home town of Jonah on the border of Zebulun」とある。  
(wiki)には「預言者ヨナは、ゼブルンのガテ・ヘフェルの出身であった。」

ガリラヤから預言者が出ている。

(ヨハネ7 : 52)「調べてみなさい。ガリラヤから預言者は起こらない。」

14 : 29          ゼカリヤ王   14 : 29 (イスラエル14)  
  
15 : 1           アザルヤ (ユダ10) =ウジヤ  
15 : 5           主が王を打たれたので、香を焚いた (2歴26 : 18)  
15 : 13          シャルム (イスラエル15)  
15 : 17          メナヘム (イスラエル16)  
15 : 22          ペカフヤ (イスラエル17)  
15 : 27          ペカ (イスラエル18)  
15 : 32          ヨタム (ユダ11)  
16 : 1           アハズ (ユダ12)

17 : 1 ( 15 : 30) ホセア (イスラエル19)

17:16 彼らの神、【主】のすべての命令を捨て、自分たちのために、鋳物の像、二頭の子牛の像を造り、さらにアシェラ像を造り、天の万象を**拝み**、バアルに仕えた。

拝み=シャハー◀ 7812. shachah (נחש) (172回) ▶ ひざまづく、礼拝する、礼をする

(NAS) (KJV) (INT)\* worship (改4)拝み

17:23 【主】は、そのしもべであるすべての預言者を通して告げられたとおりに、ついにイスラエルを御前から除かれた。こうして、イスラエルは自分の土地からアッシリアに引いて行かれた。今日もそのままである。

@アッシリア・サルゴン王《JJ》

@セナケリブ王 (イザヤ36 : 1)

17:28 こうして、サマリアから捕らえ移された祭司の一人が来てベテルに住み、どのようにして【主】を礼拝するべきかを教えた。

17:33 彼らは【主】を礼拝しながら、同時に、自分たちが移される前にいた国々の慣わしによって、自分たちの神々にも仕えていた。

10部族の回復説が間違っている根拠

(ヤコ1 : 1) ヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。

(使徒26 : 7) 私たちの十二部族は、夜も昼も熱心に神に仕えながら、、、 (ゼカ8 : 13) ユダの家よ。イスラエルの家よ、、、恐れるな。勇気を出せ。」

(2歴30 : 1) さて、ヒゼキヤは全イスラエルとユダに

使いを遣わし、また

エルサレムにある主の宮に  
エフライムとマナセに手紙を書いて、エ  
来て、イスラエルの神、主に過越のいけ  
にえをささげるよう呼び  
かけた。

(2歴30:26) ソロモンの時代から、こうしたことは  
エルサレムになかった。

(2歴34:9) すべてのイスラエルの残りの者、全ユダ  
とベニヤミンから集めた

17:35 【主】はイスラエル人と契約を結び、次のように命じられた。「ほかの  
神々を恐れてはならない。これを**拝み**、これに仕えてはならない。これにい  
けにえを献げてはならない。

拝み=シャハー◀ 7812. shachah (שחש) (172回) ▶ ひざまづく、礼拝する、礼  
をする

(NAS) (KJV) (INT) \*bow (改4)拝み

17:36 大きな力と、伸ばされた腕をもって、あなたがたをエジプトの地から連  
れ上った【主】だけを恐れ、主を**礼拝し**、主にいけにえを献げなければなら  
ない。

礼拝し=シャハー◀ 7812. shachah (שחש) (172回) ▶ ひざまづく、礼拝する、  
礼をする

2 Kings 17:36 (NAS)bow (KJV)worship (INT) \*bow (改4)礼拝し

18:1 イスラエルの王エラの子ホセアの第三年に、ユダの王アハズの子**ヒゼキ**  
**ヤ**が王となった。

ヒゼキヤ (ユダ13) (2歴29:1)

18:2 彼は二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。彼の母の名はアビといい、ゼカリヤの娘であった。

アビ＝（第二歴代誌 29 : 1）ではアビア

18:3 彼は、すべて父祖ダビデが行ったとおりに、【主】の目にかなうことを行った。

18:4 高き所を取り除き、石の柱を打ち碎き、アシェラ像を切り倒し、モーセが作った青銅の蛇を砕いた。そのころまで、イスラエル人がこれに犠牲を供えていたからである。これはネフシュタンと呼ばれていた。

ネフシュタン＝◀ 5180. Nechushtan (נְחֻשְׁטָן) 1回▶モーセが造った青銅の蛇(意味)a thing of brass(真鍮のもの)

この青銅の蛇の名は「nā・ḥāš šā・rāp̄, ナハシシュ・セラフ」◀ 8314. saraph(שָׂרָפ)7回▶燃える

民数記 21:6 そこで【主】は民の中に燃える蛇を送られた。蛇は民にかみついたので、イスラエルのうちの多くの者が死んだ。

18:10 三年後にこれを攻め取った。すなわち、ヒゼキヤの第六年、イスラエルの王ホセアの第九年に、サマリアは攻め取られた。

サマリヤは攻め取られた＝（ナホム書の記録）

18:17～20:19 まではイザヤ書 36:2～39 : 8 までを写したもの。

内容はセンナケリブ王がラブシャケなどの将軍をユダに送って攻め取らせようとしたが失敗したこと、その後、ヒゼキヤが病気がなったが回復したこと。

（ただし、イザヤ書では途中に、回復した時にヒゼキヤの感謝の歌が挿入され

ている)

18:22 おまえたちは私に「われわれは、われわれの神、【主】に拠り頼む」と言う。その主とは、ヒゼキヤがその高き所と祭壇を取り除いて、ユダとエルサレムに「エルサレムにあるこの祭壇の前で**拝め**」と言った、そういう主ではないか。

拝め=シャハー◀ 7812. shachah (שחש) (172回) ▶ ひざまづく、礼拝する、礼をする

(NAS) (KJV) (INT)\* worship (改 4)拝め

18:25 今、私がこの場所を滅ぼすために上って来たのは、【主】を差し置いてのことであろうか。【主】が私に「この国に攻め上って、これを滅ぼせ」と言われたのだ。』

18:26 ヒルキヤの子エルヤキムとシェブナとヨアフは、ラブ・シャケに言った。「どうか、しもべたちにはアラム語で話してください。われわれはアラム語が分かりますから。城壁の上にいる民が聞いているところでは、われわれにユダのことばで話さないでください。」

19:3 彼らはイザヤに言った。「ヒゼキヤはこう言っております。『今日は、苦難と懲らしめと屈辱の日です。子どもが生まれようとしているのに、それを産み出す力がないからです。』

@イザヤ書 37:3 でこの台詞が写されている

@子ども = (へ) bā nîm 息子たち

@ (共) 19:3 胎児は産道に達したが、これを産み出す力がない。

生まれようとしているのに=(子供が)突破の場所(にいるのに)=慣用句=生まれる準備ができています

◀ 4866. mishbar (מִשְׁבָּר) 3回(N)▶(突破口、決裂、絶交)の場所

place of breaking forth, place of breach, opening

19:15 ヒゼキヤは【主】の前で祈った。「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、【主】よ。ただ、あなただけが、地のすべての王国の神です。あなたが天と地を造られました。

祈った=◀ 6419. palal (פָּלַל) 84回▶(V)干渉する、とりなしする、祈る

19:20 アモツの子イザヤはヒゼキヤのところに人を送って言った。「イスラエルの神、【主】はこう言われる。『あなたがアッシリアの王センナケリブについて、わたしに祈ったことを、わたしは聞いた。』

祈った=◀ 6419. palal (פָּלַל) 84回▶(V)干渉する、とりなしする、祈る

19:25 あなたは聞かなかったのか。昔から、それをわたしがなし、大昔から、それを

わたしが計画し、今、それを果たしたことを。

19:35 18万5千人を撃ち殺した

19:37 彼が自分の神ニスロクの神殿で拝んでいたとき、その息子たち、アデラメレクとサルエツェルは、剣で彼を打ち殺した。彼らはアララテの地へ逃れ、彼の子エサル・ハドンが代わって王となった。

拝んで=シャハー◀ 7812. shachah (שָׁחָה) (172回) ▶ ひざまづく、礼拝する、礼をする

20:1 そのころ、ヒゼキヤは病気になって死にかかっていた。そこへ、アモツ

の子、預言者イザヤが来て、彼に言った。「【主】はこう言われる。『あなたの家を整理せよ。あなたは死ぬ。治らない。』」

20:2 ヒゼキヤは顔を壁に向け、【主】に祈った。

祈った = ◀ 6419. palal (פָּלַל) 84 回 ▶ (V)干渉する、とりなしする、祈る

20:3 「ああ、【主】よ、どうか思い出してください。私が真実と全き心をもって、あなたの御前に歩み、あなたの御目にかなうことを行ってきたことを。」  
ヒゼキヤは大声で泣いた。

20:6 わたしは、あなたの寿命にもう十五年を加える。わたしはアッシリアの王の手からあなたとこの都を救い出し、わたしのために、わたしのしもべダビデのためにこの都を守る。』」

@ヒゼキヤのあがきによって悪い王が立った

21:1 マナセは十二歳で王となり、エルサレムで五十五年間、王であった。彼の母の名はヘフツィ・バハといった。

21:2 彼は、【主】がイスラエルの子らの前から追ひ払われた異邦の民の忌み嫌うべき慣わしをまねて、【主】の目に悪であることを行った。

@彼が御心を受け入れて死んでいたら、15年後に12歳のマナセは即位することは無く、王国の結果はまったく違っていたであろう。

@マナセへのさばき

(2歴代 33:11)そこで【主】は、アッシリアの王の配下にある軍の長たちを彼らのところに連れて来られた。彼らはマナセを鉤で捕らえ、青銅の足かせにつないで、バビロンへ引いて行った。

@マナセの悔い改め

第2 歴代誌 33:13 神に祈ったので、神は彼の願いを聞き入れ、その切なる求めを聞いて、彼をエルサレムの彼の王国に戻された。こうしてマナセは、【主】こそ神であることを知った。

@そして良い王が立つ

@23:25 ヨシヤのようにモーセのすべての律法にしたがって、心のすべて、たましいのすべて、力のすべてをもって【主】に立ち返った王は、彼より前にはいなかった。彼の後にも彼のような者は、一人も起こらなかった。

@BUT しかし、もう遅かった

23:26 それにもかかわらず、マナセが引き起こした主のすべての怒りのゆえに、【主】はユダに向けて燃やした激しい怒りを収めようとはされなかった。

23:27 【主】は言われた。「わたしがイスラエルを除いたのと同じように、ユダもわたしの前から除く。わたしが選んだこの都エルサレムも、わたしの名を置くと言ったこの宮も、わたしは退ける。」

20:8 ヒゼキヤはイザヤに言った。「【主】が私を癒やしてくださり、私が三日目に【主】の宮に上れるしるしは何ですか。」

20:9 イザヤは言った。「次のことが、あなたへの【主】からのしるしです。【主】は約束したことを成就されます。影が十度進むか、十度戻るかです。」

20:10 ヒゼキヤは答えた。「影が十度伸びるのは容易なことです。むしろ、影が十度後に戻るようにしてください。」

20:11 預言者イザヤが【主】に祈ると、主は、アハズの日時計に落ちた日時計の影を十度後に戻された。

イザヤ 38:10 私は言った。生涯の半ばで私はよみの門に入る。私は残りの年



を失ってしまったのだ。・・38:17 ああ、私の味わった苦い苦しみは平安のためでした。あなたは私のたましいを慕い、滅びの穴から引き離されました。あなたは私のすべての罪を、あなたのうしろに投げやられました。

20:13 ヒゼキヤは彼らを歓迎して、すべての宝庫、銀、金、香料、高価な油、武器庫、彼の宝物倉にあるすべての物を彼らに見せた。ヒゼキヤがその家の中、および国中で、彼らに見せなかった物は一つもなかった。

## (2 歴代誌

32:31 ただし、バビロンの首長たちが、この地に示されたしるしについて **調べるために** 彼のもとに使節を遣わしたとき、神は彼を試みて、その心にあることすべてを知ろうとして彼を捨て置かれた。

調べるために = ◀ 1875. darash ▶ 尋ねる、求める、探す。 《説明を求めた(改2)のほうがいい》

@この地で起こった奇跡(2 歴代誌 3 2 : 3 1) を聞きつけてきた。

@にもかかわらず証をせずに自慢した。

@このときヒゼキヤは素晴らしい詩を作った(イザヤ 3 8 : 1 0 -) にもかかわらず。

イザヤ 38:10 私は言った。生涯の半ばで私はよみの門に入る。私は残りの年を失ってしまったのだ。・・

イザヤ 38:17 ああ、私の味わった苦い苦しみは平安のためでした。あなたは私のたましいを慕い、滅びの穴から引き離されました。あなたは私のすべての罪を、あなたのうしろに投げやられました。

@素晴らしい主の恵みを体験しても、困難が終わればそれをすぐに忘れてしまう。

20:14 預言者イザヤはヒゼキヤ王のところに来て、彼に尋ねた。「あの人たちは何と言いましたか。どこから来たのですか。」ヒゼキヤは「遠い国、バビロンから来ました」と答えた。

20:15 イザヤは言った。「彼らはあなたの家で何を見たのですか。」ヒゼキヤは答えた。「私の家の中のすべての物を見ました。私の宝物倉の中で彼らに見せなかった物は一つもありません。」

20:16 イザヤはヒゼキヤに言った。「【主】のことばを聞きなさい。

20:17 見よ。あなたの家にある物、あなたの父祖たちが今日まで蓄えてきた物がすべて、バビロンへ運び去られる日々が来る。何一つ残されることはない——【主】は言われる——。

20:18 また、あなたが生む、あなた自身の息子たちの中には、捕らえられてバビロンの王の宮殿で宦官となる者がいる。」

ダニエル 1:3 王は宦官の長アシュペナズに命じて、イスラエルの人々の中から、王族や貴族を数人選んで連れて来させた。

20:19 ヒゼキヤはイザヤに言った。「あなたが告げてくれた【主】のことばはありがたい。」彼は、自分が生きている間は平和と安定があるのではないか、と思ったのである。

21:1 マナセ (ユダ 14)

イスラエルの最悪の王であったがのちにへり下り (2歴 33:13) 偶像を一掃

しかし2代の後のヨシヤ王の善行にもかかわらず (2王 23:26) 主は怒った

第2列王 21:1 マナセは十二歳で王となり、エルサレムで五十五年間、王であった。彼の母の名はヘフツィ・バハといった。

ヘフツィ・バハ = ◀ 2657. (בה) (חפצי) Chephtsi-bah 2回 ▶ (google)私の持ち物

わたしの喜びは彼女にある

イザヤ 62:4 あなたはもう、「見捨てられた」と言われず、あなたの土地は「荒れ果てている」とは言われない。かえって、あなたは「わたしの喜びは彼女にある」と呼ばれ、あなたの国は「夫のある国」と呼ばれる。それは、【主】の喜びがあなたにあり、あなたの国が夫を得るからである。

21:3 彼は父ヒゼキヤが打ち壊した高き所を築き直し、イスラエルの王アハブがしたように、バアルのためにいくつもの祭壇を築き、アシェラ像を造り、天の万象を拝んでこれに仕えた。

拝んで = シャハー ◀ 7812. shachah (שחש) (172回) ▶ ひざまづく、礼拝する、礼をする

(NAS) (KJV) (INT)\* worship (改4) 拝んで

21:6 また、自分の子どもに火の中を通らせ、卜占をし、まじないをし、霊媒や口寄せをし、【主】の目に悪であることを行って、いつも主の怒りを引き起こしていた。

子どもに火の中を通らせ = 悪霊に捧げていた

21:13 わたしは、サマリアに使った測り縄と、アハブの家に使った重りをエルサレムの上に伸ばし、人が皿をぬぐい、それをぬぐって伏せるように、わたしはエルサレムをぬぐい去る。

。

21:19 アモン (ユダ15)

22:1 ヨシャ (ユダ16)

22:10 さらに書記シャファンは王に告げた。「祭司ヒルキヤが私に一つの書物を渡してくれました。」シャファンは王の前でそれを読み上げた。

書物 = ◀ 5612. sepher 186 回 ▶ 本、書き物、書類

22:11 王は律法の書のことばを聞いたとき、自分の衣を引き裂いた。

。

23:24 さらにヨシヤは、霊媒、口寄せ、テラフィム、偶像、それに、ユダの地とエルサレムに見られるすべての忌むべき物も除き去った。こうして、彼は祭司ヒルキヤが【主】の宮で見つけた書物に記されている律法のことばを実行した。

テラフィム

23:26 それにもかかわらず、マナセが引き起こした主のすべての怒りのゆえに、【主】はユダに向けて燃やした激しい怒りを収めようとはされなかった。

@マナゼ = 2代前の王 (にもかかわらず)

23:29 彼の時代に、エジプトの王ファラオ・ネコが、アッシリアの王のもとに行こうと、ユーフラテス川を目指して上って来た。そこで、ヨシヤ王は彼を迎え撃ちに行ったが、ファラオ・ネコはメギドで彼に出会った際、彼を殺した。

@メギドの戦い (紀元前 609 年)

@余計なことに首を突っ込んでヨシヤは死んだ

第2歴代誌 35:20 このようにヨシヤが宮を整えた後、エジプトの王ネコが、ユーフラテス河畔のカルケミシュで戦うために上って来た。

そこで、ヨシヤは彼を迎え撃つために出陣した。

35:21 ところが、ネコは彼に使者を遣わして言った。「ユダの王よ、私とあなたと何の関係があるのか。今日は、あなたを攻めに来たのではない。私が戦っている王家に向かって行くところなのだ。神は、早く行くように命じておられる。私とともにおられる神に逆らうことはやめよ。さもなければ、神があなたを滅ぼされる。」

35:22 しかし、ヨシヤは身を引かず、かえって彼と戦おうとして変装し、神の御口から出たネコのことばを聞かなかった。そして、メギドの平地で戦うために出かけた。

35:23 射手たちがヨシヤ王を射抜いたので、王は家来たちに言った。「私を運び出してくれ。ひどい傷を負ってしまった。」

@これによって中東のパワーバランスが壊れて、ユダ滅亡の遠因となったのではないか。

23 : 31          エホアハズ (ユダ 17)

23 : 36          エホヤキム (ユダ 18)

24 : 8            エホヤキン (ユダ 19)

24 : 18          ゼデキヤ (ユダ 20)